

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	27	4.1
80～89	43	6.5
70～79	60	9.1
60～69	89	13.5
50～59	97	14.7
40～49	106	16.1
30～39	107	16.2
20～29	98	14.8
10～19	27	4.1
1～9	6	0.9
0	0	0.0

*合格者の中から、無作為に抽出した660人(12.7%)の結果である。

〈表2〉小問別正答率

大問	小問	正答率	
1	1	ア 61.7	
		イ 66.8	
		ウ 17.4	
	2	No.1 55.6	
		No.2 58.8	
		No.3 42.4	
		No.4 43.6	
	3	No.1 93.6	
		No.2 27.6	
		No.3 62.2	
		No.4 43.6	
	小計		53.6
	2	① 64.2	
② 71.4			
③ 51.7			
④ 61.1			
⑤ 45.6			
⑥ 51.5			
小計		57.6	

大問	小問	正答率	
3	1	㊦ 85.2	
		㊧ 66.7	
		㊨ 56.2	
	2	① 49.5	
		③ 48.8	
	3	78.3	
	4	1 57.7	
		2 78.5	
		3 52.3	
		4 70.1	
	小計		64.2
	4	1	(1) 50.3
			(2) 25.5
2		43.0	
小計		40.4	
5	1	(1) 33.6	
		(2) 59.8	
		(3) 50.6	
	2	35.1	
	3	30.3	
	4	32.6	
	5	42.4	
	6	36.0	
7	32.0		
小計		37.8	

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
1 リスニング	71.8	71.4	76.4	50.8	53.6
2 対話文読解	82.6	70.8	80.4	59.5	57.6
3 対話文、文法・理解※	66.0	56.0	69.0	59.9	64.2
4 表現力	44.4	51.3	45.2	46.8	40.4
5 長文読解	56.8	43.7	56.9	45.8	37.8

※平成20年度以降の3の内容については、長文読解、表現力・文法となっている。

2 分析結果の概要

〈表1〉について、30点台から40点台という得点層が、それぞれ約16%となっており、その前後の層である50点台、60点台及び20点台にはそれぞれ約13～14%が分布している。昨年度と比較して、90点台は増加し4.1%となっている（昨年度2.5%）が、その次の層である70点台から80点台の層が15.6%と減少している（昨年度19.8%）。

〈表2〉について、特に表現力を問う4、「読むこと」の領域に関する5の問題の正答率が低くなっている（昨年度各46.8%、45.8%）。

〈表3〉について、2、4、5がこの5年間で最も低い正答率となっている。2、5は主に「読むこと」の領域、4は主に「書くこと」の領域の問題である。

3 小問ごとの内容及びねらい

大問	小 問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点							
				記号 選択	記述 ～ 英語	記述 ～日 本語	関心 意欲 態度	表現 の能 力	理解 の能 力	知識 理解				
1	1	聞く こと	ALTの自己紹介を聞いて、聞き取った語を書くことができる。	○					●	●				
			No. 1 No. 2 No. 3	対話を聞いて、対話が行われている場所を理解することができる。	○					●				
			No. 1 No. 2 No. 3 No. 4	吹奏楽部のコンサートに行くという内容の比較的長い対話を聞いて、その内容を理解することができる。	○					●				
	2		① ② ③ ④ ⑤ ⑥	読む こと	宮崎の料理に関する会話文を読んで、会話の流れを理解することができる。	○					●			
			3		書く こと	Show and Tell のスピーチ活動の英文を読んで文章の流れから与えられた動詞を適切な形にして書くことができる。	○					●	●	
						① ③	文章の内容を踏まえ、与えられた英語を用いて正しい語順で書くことができる。	○					●	
						3	文章の展開に即して内容について日本語で説明することができる。			○			●	
			4		1 2 3 4	読む こと	文章の内容を理解して英語の要約文を完成することができる。	○					●	
					1		書く こと	宮崎県の位置を示したTシャツに関する対話文を題材に、指定された語を使って、日本語に合うような英文を書くことができる。	○					●
(2)	対話の内容を理解した上で、指定された語を使って英文の一部を書くことができる。	○							●	●				
2	留学生を連れて行きたい県内の場所などを考え、その理由を15語以上の英文で書くことができる。	○							●	●				
5	(1) (2) (3)	読む こと	ホームステイ体験について書かれた文章を読んで、文章の概要・要点を読み取ることができる。	○					●					
	2		特定の段落の内容を理解し適切な副詞を補充することができる。	○					●					
	3		文章の展開に即して内容について決められた文字数の日本語で説明することができる。			○			●					
	4		文章の展開に即して登場人物の心情を読み取ることができる。	○					●					
	5		文章の展開に即して適切な英文を補充することができる。	○					●					
	6		文章の展開に即して内容を的確にとらえることができる。	○					●					
	7		指定された内容の文を本文中から見つけ出すことができる。		○					●				

4 標準解答及び考察

1 〈標準解答〉

1	ア	August	イ	guitar			
	ウ	read	a	lot	of		
2	No.1	ウ	No.2	エ	No.3	イ	
3	No.1	イ	No.2	エ	No.3	ウ	No.4 ア

〈ねらい〉

自然な口調で話される英語を聞き、聞き取った語句を書き取ったり、対話が行われている場所や内容に関する質問の答えを選んだりすることを通して、具体的な内容や大切な部分を聞き取る力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、53.6%と昨年よりやや高い（昨年度50.8%）。
- ・ 1の聞き取った語句を書き取るという新傾向の問題について、アとイの無解答はほとんどないが、誤答としてはそれぞれAugust、Ougust、Ougastやguitar、guterが多くみられる。ウの正答率は17.4%とかなり低く、語と語の連結による音変化を聞き取る力が定着していないと思われる。
- ・ 2の対話が行われている場所として適切なものを選択する問題について、正答率の平均が52.3%であり、答えを選ぶ際のヒントとなる単語や表現が聞き取れていないと思われる。
- ・ 3のNo.2の聞き取った内容をもとに、計算して数字を選ぶことができるかをみる問題の正答率は、27.6%と低い。聞き取った情報を組み合わせて答えを導き出すことができないと思われる。

〈今後の指導〉

- ・ 日常生活にかかわる基本的な語については、聞いたり言ったりするだけでなく、書き取りまでできるように繰り返し指導し習熟させる。
- ・ 語と語の連結による音変化については、授業中にその聞き取りと読み方に慣れさせる。ALTとの授業における指導が特に効果的である。
- ・ 具体的な内容や大切な部分を聞き取ることができるようにするために、聞き取りのための様々な場面や機会を与えて練習させる。

2 〈標準解答〉

①	カ	②	エ	③	イ
④	ア	⑤	キ	⑥	オ

〈ねらい〉

宮崎の料理という身近な話題についての会話文を読み、話の流れに合っている英文を選ぶことを通して、話の内容を理解して会話を構成する力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、57.6%と昨年よりやや低い（昨年度59.5%）。
- ・ 会話でよく使われる表現が入る①は64.2%、②は71.4%と正答率が高いが、③以下のように選択肢が長くなると正答率は下がる傾向にある。
- ・ ⑥は Why?の問いかけに対する答えを選ぶ問題であり、正答率は51.5%とやや低い。Why — Because という基本的関係はわかっているが、前後の文の内容理解が伴っていないと思われる。

〈今後の指導〉

- ・ 会話でよく使われる表現については、場面を意識しながら実際に使う練習をさせる。
- ・ 文章を読む際には文脈や文の前後関係に注意し、特に対話文において話の流れを理解しながら英文を読む習慣をつけさせる。

③ 〈標準解答〉

1	㉗	began	㉘	studying	㉙	written		
2	①	I'm sure he's the best judo player in the world						
	③	it is important for him to study hard						
3	・(例) 世界中で柔道を教えること。							
	・(例) 柔道を通して多くの友だちをつくること。							
4	1	ク	2	カ	3	イ	4	オ

〈ねらい〉

身近な話題についての英文を読み、動詞の語形変化、語句並べ替えによる英文作成、日本語での説明、英語による要約文完成を通して、その内容を読み取る力や表現力、文法力をみる問題である。Show and Tell のスピーチ活動の場面設定となっている。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、64.2%と昨年より高い（昨年度59.9%）。
- ・ 1の動詞の語形変化を問う3題のうち最も正答率が低かったのは、㉙の written で後ろから名詞を修飾する働きをする過去分詞を書かせる問題である。修飾語の位置が日本語と異なっていることと、過去分詞のもつ意味合いがよく理解できていないと思われる。誤答例のうち約6割は過去形の wrote を書いている。
- ・ 2の語整序の問題はいずれも正答率が5割に達していない。③の誤答例としては、it is hard for him to study important.のように important と hard が入れ替わっているものが目立つ。hard の品詞による意味の違いを正確に理解していないと思われる。
- ・ 4の要約文完成問題のうち最も正答率が低かったのは、3の a big () of Mr. Inoue の空欄にイの fan を入れる問題であるが、誤答の7割がキの player を入れている。後ろに続く部分までよく読んでいないと思われる。

〈今後の指導〉

- ・ 言語材料の基礎的・基本的事項については、繰り返しの指導によって定着させる。
- ・ 形容詞の働きをする分詞等については、日本語と異なる語順となる場合が多いので、英語と日本語の文構造の違いに気付かせる。
- ・ 語整序については、文型、文法事項、語の品詞等の全般的な力が試される。教科書の基本文の暗唱や暗写などの練習をさせる。

④ 〈標準解答〉

1	(1)	(例) I have never seen it before.
	(2)	(例) [it will] make Miyazaki [more] famous
2	①	(例) Aoshima
	②	(例) It is one of the most famous places in Miyazaki. It has a beautiful beach and a shrine. (18 語)

〈ねらい〉

1は宮崎県の位置を示したTシャツに関する対話文を題材に、表現力をみる問題、2は留学生を連れて行きたい県内の場所などを考え、その理由を英文で書く力をみる問題である。いずれの問題も初歩的な英語を用いて自分の考えなどを表現する力が必要である。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、40.4%と昨年より低い（昨年度46.8%）。
- ・ 1の(1)は、50.3%の正答率である。現在完了の「経験」を表す表現がもつ意味合いを十分に理解していないと思われる。
- ・ 1の(2)は、本文の内容を理解した上で、指定された語 make を使って英文の一部を書く問題である。誤答としては主語＋動詞＋目的語＋補語（形容詞）の文型の形式になっていないものが多い。文の流れを読み取る力と文型を意識した書く力が定着していない

と思われる。

- ・ 2は無解答が約16%、語数不足が約11%となっており、7割以上の答案が15語以上で書いてある。このことから、全般的には積極的に書こうとする意欲が感じられる。ただし正答率が43.0%であることから、読み手に正しく伝わるように書く力は定着していないと思われる。

〈今後の指導〉

- ・ 文型を意識した練習を繰り返し行うことで、文を言ったり書いたりできるようにする。
- ・ 具体的な場面や状況の中で話題を設定して、考えや意見を日本語でまとめてから英語で書く練習をさせるなど、自分の意向が読み手に対して正しく伝わるように、まとまりのある内容の文章を書かせる。

5 〈標準解答〉

1	(1)	エ	(2)	ア	(3)	ウ
2	エ					
(例)	自分は何を考え、どのように感じている					
3	か、言うことができなかつたこと。					
4	イ					
5	ア					
6	ウ					
7	最初の2語			～	最後の2語	
	I learned				others better	

〈ねらい〉

英語の先生が、卒業する生徒へのメッセージとして文集にのせるために、中学生の頃のホームステイ体験について書いた比較的長い英語の文章を読み、その内容の概要や要点を読み取る力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、37.8%とこの5年間で最も低くなり、昨年度と比較して8ポイント低下している（昨年度45.8%）。
- ・ 1と5以外の問題の正答率が4割に達していないことから、まとまった量の英文を読むことに課題があると思われる。また、最後の大問であることから問題を解くための十分な時間を充てることができなかつた可能性も考えられる。
- ・ 2は該当の段落全体の内容を読み取ることができれば、適する副詞を選ぶことができる問題であるが、正答率は35.1%である。設問となっている文だけをみて、解答している可能性が高い。
- ・ 3は下線部 I had a problem.について、決められた字数の日本語で説明する問題であるが、正答率は30.3%である。無解答は約29%である。
- ・ 4は with tears in my eyes という表現について主人公の心情を読み取る問題であるが、正答率は32.6%である。行間を読む力が不足していると思われる。
- ・ 7は指定された内容の文を、本文中から見つけ、抜き出す問題である。問題自体に「学んだことは何ですか」というヒントがあるにもかかわらず、I learned という部分を指摘できずに、正答率は32.0%と低くなっている。特定の情報を求めてすばやく読むことに慣れていないと考えられる。

〈今後の指導〉

- ・ 語彙力の育成を確実にしながら、ある程度の長さの文章を、設定した時間内に読み取らせる。
- ・ 段落全体の概要を読み取る、本文中の表現について具体的に日本語で説明する、ある表現に込められた登場人物の心情を読み取るなど工夫した読み方をさせる。
- ・ 限られた時間の中ですばやく英文に目を通したり、意識的に特定の情報を探しながら読んだりするなど、目的に合ったさまざまな読み方をさせる。